

第2回広域避難者支援ミーティング in かながわ 報告書

東日本大震災および福島第一原子力発電所事故の影響により神奈川県に避難されている方々を支援する団体、個人を対象に、具体的な支援の取り組みや支援の手法等の情報を共有するため、11月21日に「第2回広域避難者支援ミーティング in かながわ」を開催しました。ご参加、ご協力いただき、ありがとうございました。引き続きご指導、ご協力を賜りますようお願い致します。

日時：2015年11月21日（土）13:00～16:30

場所：横浜市開港記念会館1階1号会議室

来場者数：34名

主催：NPO法人かながわ避難者と共にあゆむ会

協力：東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）、NPO法人日本ファシリテーション協会（FAJ）

後援：岩手県、宮城県、福島県、横浜市、川崎市、相模原市、神奈川県社会福祉協議会、川崎市社会福祉協議会、相模原市社会福祉協議会、朝日新聞横浜総局、毎日新聞横浜支局、読売新聞横浜支局、日本経済新聞横浜支局、神奈川新聞社、tvk テレビ神奈川、FM 横浜

\*かながわボランティア活動推進基金21（協働事業負担金）対象事業

<当日のプログラム>

13:00-13:10 開催目的、プログラムの説明

開会挨拶 かながわ避難者と共にあゆむ会理事長 鈴木 實

神奈川県安全防災局安全防災部災害対策課計画グループ 松井 隆明

13:10-14:15 第1部「現状把握」避難当事者に聞く、避難者を取り巻く状況

避難者からお話しを伺い、今求められている支援の形とその関わり方を考える

<話題提供>

①K.W.さん（双葉町から神奈川県に避難、現在は埼玉県に在住）

②Y.O.さん（南相馬市原町区から埼玉県に避難）

M.T.さん（同上）

\*自主避難者向け情報誌「お手紙ですよ ぽろろん♪」編集運営スタッフ

14:15-15:05 第2部「グループディスカッション」今後の支援と連携の方法を考える

具体的なつながり作りのために、継続的に情報交換をしていくにはどういった場が必要か、その内容や議題等について考える

15:05-16:20 第3部「全体共有」今後の支援と情報交換につなげる

第2部で話し合われた内容を全体で共有、今後の支援や情報交換に反映させる

16:20-16:30 参加者からの感想

福島県避難地域復興局避難者支援課神奈川県駐在 渡邊 孝大

一般社団法人 ふくしま連携復興センター 柳本 新一

閉会



### <報告>

第1部では、福島県から避難された当事者の方からお話を伺い、第2部は、今後の支援と連携の方法を参加者全員で考えるグループワークを実施した。最後の第3部では、グループワークで話し合った内容を全体で共有し合った。

第1部は、3名の方に登壇頂いた。K.W.さんは双葉町から神奈川県に避難。家族が最大で5か所に分かれて生活していた時期もあったが、家族揃った生活を求め、今年埼玉県に引越した。双葉町には戻りたいが、子どもたちには住まわせてはいけない場所だという話もあった。会場からは「帰る、帰らない等様々な考えがある中でのコミュニケーションの工夫」等の質問があがった。

また共に二児の母であるY.O.さん、M.T.さんからは、子を思う母の苦悩と苦勞、交流会に参加できるまでに時間がかかった経験、そして情報誌編集活動を通して同じ思いを持つ方々で集える場づくりについての話があった。会場からは「住宅補助が打ち切られていることについてどう考えているか」「避難していながら支援も行っている。辛くなることはないか」等の質問がなされた。

第1部を受けて、2部・3部のグループワークでは、様々な意見交換が行われた。強制避難や自主避難など、避難者自身の立場や状況は様々であり、また支援団体のそれぞれの目的も異なる。更に今回は神奈川県内の団体だけでなく、他都県からの参加もあったことで、地域によって異なる状況をお互いに情報交換する場にもなった。その結果、大切なことは「お互いの選択を尊重すること」「色々な立場の方と会って対話すること」だという声が多く聞かれた。

神奈川県内には今も多くの方が避難されている。その方々が避難生活を送る中で、少しでも生活しやすくなるにはどういったことが必要か、また私たちに何ができるのか、それらを考えるため、今回の会議は避難当事者の方にもご協力いただき、避難当事者の声に耳を傾けるところから始まった。全体を通して、参加者からは「継続は力なり。今やっている支援活動をやめないこと」「情報を共有して伝えていくこと」「避難者のことをもっとよく知ること」が重要であるといった意見・感想が語られた。この場で出された意見をもとに、今後定期的な情報交換の場を皆さんと共に作っていききたい。